琉球大学学術リポジトリ

海外拓殖資料第十號 英國系印度人の教育問題

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2018-04-16
	キーワード (Ja): 矢内原忠雄
	キーワード (En): Yanaihara Tadao
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38355

矢内原忠雄文庫

史料名	海外拓殖資料第十號 英國系印度人の教育問題 財團法人拓殖奨勵館調査部
封筒番号	457
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 21 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 457

史料名	海外拓殖資料第十號 英國系印度人の教育問題 財團法人拓殖奬勵館調査部
資料形態	A4
枚　数	7
頁　数	14
縦（cm）	
横（cm）	
厚さ(cm)	
書誌的事項	植民 今泉分類記号： P

琉球大学附属図書館

海外拓殖資料第十號

英國系印度人の教育問題

財團法人拓殖奬勵館調査部

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Kodak LICENSED PRODUCT
Inches Centimetres

はしがき――英國人と印度人との婚姻によつて生れた英國系印度人は、その數においては印度の極めて多數の分派社會のうちで最小である。しかし印度社會において占める彼等の地位及び勢力は決して最小ではない。といふのは從來彼等は中央及び地方の樞要な行政上の地位を占め、また郵便電信鐵道などの職務は殆んど彼等によつて獨占せられてゐたからである。そして彼等がクライヴの時代から常に英國王冠に對して不變の忠誠を示してきたのも、一部分以上のやうな彼等の社會的地位の優越に基づくものであらう。ところがこれら英國系印度人は最近著しく困弱狀態に陷つてゐる。それは一面においては印度における經濟的不況の影響であるけれども、他面においては新印度憲法實施の結果でもある。といふのは新憲法によつて

一

實施されつゝある印度各州の自治は、ヒンヅウ教徒であれ回教徒であれ印度人によつて殆んど占められ、純粋に印度人でもなければまた純粋に英國人でもない英國系印度人は白眼視されてゐるからである。英國系印度人のこのやうな弱境を救濟打開するために、援助をなすべきであるといふ意見が、英本國社會、特に宗教會方面において高まりつつある。そしてそのやうな援助としては英國系印度人の教育を改善發達せしめることが最善の方法であるとして、現在印度のアングリカン教會の管理下にある英國系印度人の諸學校の問題が論議されつつある。ここに採錄するのは英國の東印度協會及び海外聯盟の共同會合においてなされた講演要旨である。

二

英國系印度人の教育問題

サー・チョージ・アンダーソン

一、英國系印度人の學校

英國系印度人の學校は極めて種類が多く、その効果の程度も樣々である。住宅區を對象とする丘陵學校、市中の大規模な學校、英國系印度人が集合してゐる地域に散在してゐる小規模の學校、鐵道會社從業員たる歐洲人及び英國系印度人のための鐵道學校、孤兒のための孤兒院等々。これらの學校は兒童に普通教育を授け、宗教的情操を養ひ、結合感を增進するなど、過去においてそれぞれ相當の効果をあげた。

三

だが不幸にもこれらの學校は悉く、多かれ少かれ財政難に陷つてゐる。兒童や生徒の父兄たちは月謝支拂に困難を感じ、また政府補助金は減額されてゐる一方、學校經營費は增大しつつある。

四

このやうな困難を救濟するには如何にすべきであるか。政府補助金の割當方針は收入不足を或程度に補ふことである。だから個々の學校に寄附をすることは、それだけ政府補助金を減縮する結果になり、個々の學校にとつては著しい利益にならぬだらう。或場合には差別待遇が必要であらう。また多くの地方では不幸にも綜覽や努力が重複してゐるから、學校の集中化が必要であらう。

二、根本的改造

しかし英國系印度人の學校については、もつと根本的な考察をせねばならぬことを忘れてはならなぬ。

屢々指摘されてゐるやうに、宗教的並びに人種的な學校や大學が、

印度の呪詛となつてゐるかのコンミユナリズムの精神を強めてゐると稱せられてゐる。だから少年時代から青年時代まで特殊學校といふ狹隘な雰圍氣の中で教育されてよいものではない。印度では現在その反對の傾向が增進しつつある。

最近における最も喜ぶべき教育の發達は、被抑壓階級に對する態度の變化である。この階級の不幸な兒童を別の學校で教育するのが得策だと考へられてゐる。たかこれらの兒童を普通學校に收容し、能ふ限り彼等をもつと慈まれた階級の子弟と同等の取扱をすることが、さしあたりもつと有意義な方策であらう。また回教徒は彼等の教育上の發達が不利な狀態におかれてゐることを感じ始めてゐる。といふのは彼等の子弟は程度の低い普通教育を授け、排他的精神を促進するマクダ

ブで教育されてゐるからだ。更に印度の上流支配階級もまた彼等の大學が時代錯誤であることを知り始めた。彼等はその子弟がもつと自由な雰圍氣の中で、もつと視野の廣い教育を授けられねばならぬと考へ始めた。これらの學校當局も入學規則を寬大にし學科課程及び訓練を廣くする手段を講じつつある。

印度におけるこのやうな一般傾向から考へると、英國系印度人の教育を依然として別個の分離施設でなすのが適當であるかが疑問になる。しかし私は條件づきで、分離教育がむしろ適當だといひたい。これらの學校の心髓はキリスト教、英語、及び英國の傳統にある。これらはどんな犧牲を拂つても、英國系印度人の社會に保持されねばならぬものだ。更に有力な理由としては、これらの學校を保持し發達させること

との價値が、一般に認められてゐることをあげたい。卽ちこれらの學校が印度の敎育的發達に多大の貢獻をなしたことは萬人の知つてゐるところである。だがこれらの學校は排他的であつてはならぬ。印度人兒童を入學せしむべきであるか、その際入學せしむべき兒童の比率を定めておくがよからう。その比率は寄宿學校の場合には一五%、通學學校の場合には二五%とするのが適當のやうに思へる。宗敎や食物のことについては印度人兒童は關與する資格のないやうにするがよからう。印度人兒童を入學させることは學校自体にとつて大いに利益だ。といふのは彼等を入學せしめることは環境を擴大するばかりでなく、學校の生命と進步に寄與するであらうからだ。

三、その他の改革

なほ現存敎育制度については不滿な點があり、思ひ切つた改革が欲求されてゐる。例へば授業が極めて文學的であること、身体を動かさない研究が多すぎて健康な活動が少なすぎること、學校が大學及び試驗の必要によつて動かされてゐること、純粹に文學的な研究の期間が長いために生徒は實地の職業及び訓練を嫌ふやうになること、從つて印度が當面してゐる問題は失業ではなくて、使用に堪えない人間だといふことなどが現制度の缺點としてあげられてゐる。そしてこれらの缺點を改めるために、學校を大學入學準備の桎梏から解放すること、在學年限をいくつかの段階に分ち各段階それぞれ目的を有せしめること、試驗は各段階が完了したときにのみ行ふこと、生徒に實際的職業及び訓練に向けること、などが提議されてゐる。

以上の諸點のうち二つの點だけについて私見を述べたい。先づ第一に學科課程についていへば、現在ではウルデュ語の授業が多數の學校で不完全である。その理由は卑近である。印度人學校においても東洋のクラシックや土着語の教授を受持つてゐる教師は、他の學科受持の教師に較べてその報酬や地位が低いのだが、英國系印度人の學校ではなほひどい。このやうな缺陷は改められねばならぬ。第二に實際的職業及び訓練が不十分であるが、これは早急に改められねばならぬ。他の社會團体におけると同じやうに、英國系印度人も指導者を必要とする。そしてこのやうな指導なるものは主として公職階級及び自由職業階級によつて與へられるものである。この點から見込のある生徒には醫學、工學、法律、農業などに關する職業的訓練を與へるやうにせねばならぬ。

要するに英國系印度人の福祉を增進するために結局金錢が必要である。しかも重要なことは彼等に對する金錢的援助は早急になされねばならぬといふことだ。

（アジアテイツク・レヴユー誌　一九三九年一月號）